

令和6年度 第2回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和6年7月17日（水）14：00～17：00

場所：本庁舎A棟2階 第2委員会室

出席者：下平会長、村松委員、胡桃澤委員、山崎委員、今村委員（匡）、今村委員（紀）、篠田委員、熊谷委員
高田副市長（行財政改革推進本部長）、清水総務部長、佐々木財政課長、澤柳企画課長、伊藤人事課長

欠席者：畠中委員、北原委員、鳶田委員、和田委員、松村委員、市瀬委員、森下委員

1 開会

2 任命書交付

（清水総務部長）

任命書交付について、委員として新たに1名の方をお願いする。新たな委員は、名簿のNo.3 北原正志様であるが、本日ご欠席のため、次回の会議の際に改めて任命書を交付させていただく。

また、北原委員の前任の岩戸委員は、職務代理者であった。当委員会の条例に基づき、会長より次の職務代理者のご指名をいただく。

（下平会長）

当委員会の条例に基づき、会長職務代理者として鳶田 盛光委員を指名する。

3 あいさつ

（下平会長）

本日はお忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。

最近は熱中症やコロナ感染者も増加傾向にあるため、お身体に気を付けてお過ごしいただきたい。また、梅雨によって線状降水帯が多発しており、大きな被害も出ている。今週中には梅雨明けの予報であり、さらに暑さが懸念されるため、より一層体調には留意してお過ごしいただきたい。

世界の情勢に目を向けてみると、相変わらずウクライナとロシア、イスラエルとハマス等では戦闘が続いている状況である。イギリス、フランスでは選挙があり、イギリスは労働党に政権交代し、フランスでは左派が進出してきた状況である。アメリカではトランプ前大統領が狙撃をされたりと、社会情勢が大きく変わってきている印象である。また、国内では東京都知事選挙があり、56人も立候補し、ポスターの扱い方やSNSが多用される等、選挙の在り方も大きく変わってきたと感じている。今年の秋には飯田市長選挙、飯田市議会議員補欠選挙があり、こちらもどう変わるかというところではあるが、選挙に行くことをお願いしたい。

さて、本委員会は今年度2回目の行財政改革推進委員会となる。協議事項としては、公の施設の管理方法について、指定管理者制度を導入している施設があるが、「令和6年度末に指定管理の協定期間が終了する施設の実績評価と今後の運営方針」を協議することとなっている。本委員会は、「指定管理者制度の運用が適正に行われているか」、「効果的な取組になっているか」など、市が評価した内容を第三者の視点で評価する組織に位置付けられている。前回の会議では、「委員が評価を行うにあたって、基本的な知識を身につけている必要がある。」という考え方のもとで、事務局よりこの制度の説明を受けるとともに、現地視察を実施したところである。本日の評価を行う前段階として、制

度の基本的な内容を理解し、実際に現地で施設の状況を確認することができたので、本委員会としても適切な評価につながるものと考えている。本日は、市側からの説明を受けて、委員それぞれの立場での意見や提案などをいただきたい。

また、前回の会議において、高田副市長のご挨拶にあったが、本日は次期・飯田市行財政改革大綱の策定にあたって、本委員会の任務として調査・審議を行う予定もあるので、しっかりとご協議をいただくことをお願い申し上げ、会長の挨拶とする。

(高田副市長)

本日はお忙しい中、ご出席を賜り感謝申し上げます。

先ほど下平会長からもお話があったが、前回の委員会では指定管理者制度の概要の説明と実際に3つの指定管理施設を視察していただいた。現地では、指定管理者からの丁寧な説明もあり、委員の皆様には熱心にご質問をしていただき、非常に活発な視察になったとお聞きしている。

本日は、今年度末をもって指定管理期間が満了となる施設について、実績評価と今後の運営方針をご協議いただく予定である。担当課からそれぞれ指定管理施設について説明をさせていただくので、ご不明な点等については、遠慮なくご質問をお願いしたい。

また、今年度は次期飯田市行財政改革大綱の策定の年であり、諮問をお願いする予定であるので、よろしくをお願いしたい。本日も含め、今後も飯田市行財政改革推進委員会の予定があるので、ご審議、ご協力をお願い申し上げ、挨拶とする。

4 確認事項

(1) 令和6年度に指定管理の協定期間が終了する施設の実績評価について 【佐々木財政課長説明】

- ・指定管理施設の第三者評価の実施にあたって 資料1-1
- ・指定管理施設実績評価及び今後の運営方針検討票（第三者評価）記載例 資料1-2
- ・指定管理者制度導入施設一覧 資料1-3
- ・指定管理施設実績評価表及び今後の運営方針検討票 資料1-4

No.1 飯田市障害者生活ケアセンター（福祉課） 【福沢福祉課長説明】

(胡桃澤委員)

制度導入によるメリットに、「重度の身体障がい者及び医療的ケアが必要な者の受け入れに必要な看護師等のスタッフを配置」とあるが、スタッフの募集は飯田市か指定管理者、どちらが行っているのか。

(福沢福祉課長)

施設を運営している社会福祉法人あゆみ会に責任をもって募集を行っていただいている。

(今村委員(匡))

その他・課題等に、「経営改善を図ることが課題である」とあるが、具体的に考えていることを教えていただきたい。

(福沢福祉課長)

先ほど少し触れたが、施設体験利用の促進、施設のホームページをリニューアルして広くPRする、稼働率の向上を目標に指定管理者と検討を進めているところである。

(下平会長)

障がい者ケア施設は運営が大変な印象であり、以前は社会福祉法人悠水会が指定管理者をしていたが、経営悪化により交代しており、現在の指定管理者である社会福祉法人あゆみ会も他施設の収益で収入を賄っている状況である。これから先も同じようなことが続いていくのではないかと懸念されるが、どのように考えているのか。

(福沢福祉課長)

ご指摘のとおりである。ただ、飯田市内では採算が取れている障がい者ケア施設もあるため、何かが足りていないと考えている。国のマニュアル通りにはなかなかいかないところではあるが、行政としても受け入れ人数の変更シミュレーションを行う等、指定管理者と一緒に対策を考えていきたい。

No. 2 飯田市中心部デイサービスセンター (長寿支援課) 【乾長寿支援課長説明】

(山崎委員)

決算額が赤字になったり黒字になったりと変動しているが、説明をお願いしたい。

(乾長寿支援課長)

令和3年度は指定管理者が悠水会であったため、収支内容は比較できるものではない。収入に関しては、市が直営で運営しても利益が出ないという試算のもと、令和4年度から指定管理委託料の支払いを受けている。介護保険事業収入に関しては、営業日数の変更により変動している。収支に関しては、法人内部で障がいサービスと介護サービスで按分しているため、合算した数字で比較していただきたいが、記載部分の数字でみると人件費が大きく減ったことから支出が減少し、令和5年度は黒字、令和4年度は赤字、このような比較となる。

(山崎委員)

介護保険事業収入が営業日数に応じて支払われるという認識でよいか。

(乾長寿支援課長)

利用者人数に応じて支払われる仕組みである。

(胡桃澤委員)

私もデイサービスセンター2箇所の運営に係わっているが、非常に良い事業だと思っている。しかし、設備の老朽化がとても深刻な問題である。収支の関係で、設備の修理依頼があった際には早期対応が可能なのか。

(乾長寿支援課長)

修繕に関しては、費用が安価である場合は法人にお願いしており、大規模な修繕に関しては飯田市が負担している。飯田市としては、施設の長寿命化計画を作成し、修繕不可になる前に老朽化の進む施設から順番に大規模修繕作業に取り組んでいる。

(村松委員)

営業日数が前指定管理者である社会福祉法人悠水会のとときと比較して年間100日近く減っているが、これに対して利用者からの声はあるのか。

(乾長寿支援課長)

デイサービスセンターの施設は飯田市内に50箇所以上あり、利用者の取り合いになっている状況であるため、土曜日、日曜日に運営している他団体で補えている印象である。

(篠田委員)

支出の人件費が減っているが、これは何か奇策があったのか。

(乾長寿支援課長)

No. 1の飯田市障害者生活ケアセンターと経営が同じであるが、こちらの人件費は増えている状況である。法人内部で人件費も按分しているため、合わせた数字で動きを見ていただきたい。

(熊谷委員)

指定管理委託料についてであるが、令和4年度から令和5年度で130万円ほど増額しているが、年度ごとに見直しをしているのか。また、今年度の変動があれば状況を教えていただきたい。

(乾長寿支援課長)

管理指定委託料に関してはガイドラインで説明があったとおりであるが、毎年計算をし直している。令和6年度の委託料に関しては、飯田市障害者生活ケアセンターに関しては増加、飯田市中心部デイサービスセンターに関しては減少という状況である。

No.3 特別養護老人ホーム 第二飯田荘 (長寿支援課) 【乾長寿支援課長説明】

(今村委員(紀))

指定管理取消しにショックを受けている。人手不足は簡単に解決できるような問題ではないが、新たな指定管理者が決まらなかった場合は、飯田市が責任をもって運営するのか。

(乾長寿支援課長)

この景気でも人材は取り合い、若年層の減少により介護業界は特に人手不足の状況である。社会福祉法人飯田市社会福祉協議会からは数年前から相談をされていた。飯田市が直営ということは不可能に近いことであるため、大規模経営をされている法人に事前にサウンディングをしている。現状は、複数の法人から前向きな返答をいただいている状況である。

(今村委員(紀))

次の指定管理者の目星はついているという認識でよいか。

(乾長寿支援課長)

断言をすることはできないが、指定管理に前向きな法人はあるという認識である。

(今村委員(紀))

介護業界全体で給与の低さが問題であるが、訪問介護者の給与を引き下げようとする動きもあり、非常に厳しい状況である。もし次の指定管理者がみつからなかった場合、飯田市が責任をもって管理するくらいの気迫で、最後の頼みである第二飯田荘の指定管理をぜひとも続けていただきたい。

(乾長寿支援課長)

承知した。

(山崎委員)

新たな指定管理者を募集する主管課は、長寿支援課という認識でよいか。

(乾長寿支援課長)

その通りである。

(山崎委員)

どのように募集を行うのか。

(乾長寿支援課長)

募集要項・申請様式を作成し、広報いいだ・市のホームページへの掲載を行っている。

(篠田委員)

介護保険事業収入が年々減少しているが、どうにかできないのか。

(乾長寿支援課長)

介護報酬改定が3年に1度行われており、単価は上がっている状況である。しかし、職員数が減ったことにより50床を40床で運営しているため、利用者数が減少しており、介護保険事業収入の減少に繋がっている状況である。

No.4 飯田市21世紀環境共生型モデル住宅 (ゼロカーボンシティ推進課)

【下井ゼロカーボンシティ担当参事説明】

(胡桃澤委員)

利用者数4,000人、施設利用料等収入額120,000円と少なく、市支出の指定管理委託料を3,000,000円ももらって運営しているが、果たして本当に有効性があるといえるのだろうか。

(下井ゼロカーボンシティ担当参事)

環境に配慮したモデル住宅として様々な人に利用していただいている施設となっている。確かに利用者数、施設利用料等収入額ともに充分とは言えないが、月1、2回開催しているイベントはかなりの賑わいであり、施設のPRになっているので有効性はあると考えている。

(胡桃澤委員)

前回の委員会の際に実際に見学させていただき、本当に必要なのかあまり有効性を感じることができなかった。もう少しPRの手法を改めたほうがよい。

(今村委員(匡))

ゼロカーボンを目指し、気候変動対策の啓発を目的としていると思うが、結果として二酸化炭素をどれだけ削減できたか等、数値を表していただくと評価しやすいが、どうか。

(下井ゼロカーボンシティ担当参事)

二酸化炭素削減の数値をはっきりと出すことは難しいが、数値を見える化していくことが課題であると考えている。

(村松委員)

アンケートなどによる利用者の声・評価に施設利用に対する満足度は非常に高かったと記載してあるが、2050年ゼロカーボンシティいっだの普及啓発活動に対するアンケート結果はあるか。

(下井ゼロカーボンシティ担当参事)

2050年ゼロカーボンシティいっだのアンケートはとっていないが、課として今後実施していく予定である。

No.5 飯田市保健休養施設 (商業観光課) 【宮下商業観光課長説明】

(胡桃澤委員)

市支出の指定管理委託料が多額であるが、収入の面で指定管理者として努力できるようなことはないか。

(宮下商業観光課長)

施設の活用については、沢城湖の釣り堀、動物とのふれあい、キャンプサイトの運営をしており、令和5年度は1,194,030円の収入となっている。キャンプサイトについては情報発信を行い、まずは飯田市民を中心に広げていきたいと考えている。地域の活用については伊賀良のまちづくり協議会も協力してくれているため、収入面でも増やしていけるように努力していきたいと考えている。

(山崎委員)

人件費の支出内容を教えていただきたい。

(宮下商業観光課長)

ゲストハウスがあり、管理人1名が常駐しており、繁忙期は2名体制で運営をしている。

(山崎委員)

手当という認識でよいか。

(宮下商業観光課長)

そのとおりである。

No.6 飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設 (地域自治振興課)

【小椋地域自治振興課長説明】

(山崎委員)

私は南信濃出身であり、シニアクラブの代表を務めている。こちらの施設は、木沢地区活性化推

進協議会の応援としてシニアクラブが日々管理しているが、とても高齢化が進んでいる状況である。全国からライダーが集まり、交流会をする貴重な場であるため、体の続く限りはしっかり守っていききたい。

(篠田委員)

支出の部分で人件費が記載されていないが、施設利用料の中から繰り出しているのか。

(小椋地域自治振興課長)

人件費はボランティアで運営しているため、支出はない。

(篠田委員)

飯田市からの援助は何もないのか。

(小椋地域自治振興課長)

地域住民の皆様の意向で施設の保存・活用を行っていただいているため、指定管理者制度の導入当初から飯田市は指定管理委託料を措置していない。

(篠田委員)

今まで施設から援助の要望はなかったのか。

(小椋地域自治振興課長)

そのとおりである。

(篠田委員)

ボランティアだけで運営を行っていることは非常に良いことだとは思いますが、長続きしていくためには援助をお願いしたい。

(小椋地域自治振興課長)

指定管理団体と協議をして考えていきたい。

(胡桃澤委員)

建物の崩壊、施設が原因で怪我人が出た場合の補償はどうなっているのか。

(小椋地域自治振興課長)

瑕疵があった場合は負担していきたい。

(胡桃澤委員)

今までの話ではなく、今後の対応を教えてください。

(小椋地域自治振興課長)

施設の通常管理の中で検討して行っていきたい。

(篠田委員)

施設の耐震性のことも言われると思うので、今後の施設の在り方も含めて検討していただきたい。

No.7 飯田市立動物園 (維持管理課) 【近藤維持管理課長説明】

(熊谷委員)

入場料が無料で非常に素晴らしいと思うが、市支出の指定管理委託料が年間約 50,000,000 円も発生しているが、今後入場料の検討はあるのか。また、ふるさと納税に関して、動物園運営に絞った納税は行っているのか。

(近藤維持管理課長)

動物園の有料化については現在検討していないが、ふるさと納税型クラウドファンディングで児童用電動遊具の購入を目的とし、令和6年9月30日まで募集を行っている。こちらで得た寄付金で購入した児童用電動遊具の使用料を施設の運営資金に充てていきたいと考えている。動物園運営に絞ったふるさと納税は検討していない。

(熊谷委員)

飯田市立動物園は飯田市外からの利用もかなり多いが、市外の利用者のみ利用料を徴収するというのは現実的ではないと思うので、例えばふるさと納税で得た収入を指定管理委託料に使用することを検討いただきたい。

(山崎委員)

雑収入の内容を教えてください。

(近藤維持管理課長)

コロナによる休園の補償金である。

(村松委員)

施設使用料等収入が令和4年度から令和5年度でかなり増えているが、指定管理者が何か工夫したことがあれば教えてください。

(近藤維持管理課長)

カピバラの飼育やエサやり体験等のイベントを開始したことによる来場者増加によるものである。

No.8 平成記念飯田子どもの森公園 (維持管理課) 【近藤維持管理課長説明】

(今村委員(紀))

視察をした際にとっても工夫をしていると感じた。経年劣化による修繕が必要な箇所も、資金不足により緊急性のあるところから順に修理をしていると仰せであった。子どもたちが安全に遊べるようにぜひ修繕費用を負担していただきたい。

(近藤維持管理課長)

小規模の修繕は指定管理者にお願いをしている。毎月1回指定管理者と飯田市で意見交換会を行っており、そこで情報をいただきながら、飯田市としても大規模修繕に関しては注視していきたい。

No.9 飯田市今田人形の館 (文化会館) 【筒井文化会館館長説明】

(胡桃澤委員)

このような伝統的な施設は飯田市が管理すると決まっているのか。神社も含まれるのか。

(筒井文化会館館長)

この施設は神社ではない。この施設は人形浄瑠璃を専門に扱う施設となっている。飯田市には今田人形と黒田人形、2つの人形浄瑠璃が存在し、国の無形文化財にも指定されていることから飯田市として保存・継承のために施設を設置している。

(胡桃澤委員)

霜月祭りのような県の無形文化財に関しては、飯田市は管理していないのか。

(筒井文化会館館長)

無形文化財の場合、国・県・市それぞれ指定があるが、人形浄瑠璃に関しては伊那谷4座が無形文化財に登録されている。霜月祭り等のお祭りを伝承することに関しては、国・県・市それぞれ支援をしている。伝承するだけでなく、公開する場所が重要だと考え、飯田市が公の施設を整備し、今田人形と黒田人形の館を管理している。

No.10 飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館 (文化会館) 【筒井文化館館長説明】

(今村委員(匡))

飯田市今田人形の館と比較し、利用者数はほぼ同じだが、市支出の指定管理委託料が違うのはなぜか。

(筒井文化会館館長)

指定管理が始まった当初は飯田市今田人形の館と同じ指定管理委託料で運営していたが、飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館の場合は保存会の皆様の人件費が発生するため、途中で協議を行い、人件費を含めた委託料とした。

(下平会長)

すべての施設の説明が終わったが、全体を通して意見はあるか。

(山崎委員)

私事であるが、飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設について南信濃地域交流センターの林所長から聞き取りを行ってきた。シニアクラブの中からも3名がこの施設の管理に携わっている。この施設は日本全国から登山家が立ち寄っている。イベントの際の移動販売車からの利用料の徴収、地元出身の歌手の方を招待し、イベントを開催した際の募金を収入にしている。施設の方も耐震性について問題視しているが、木造校舎である点が魅力であるため、地域住民と協議を重ねつつ対処していきたいと仰せであった。

個別施設に係る質疑は以上で終了。

(下平会長)

委員会としては、個別の施設ごとに委員から出された意見と、各委員が記入した「評価集約票」をもって、第三者評価の結果とする。評価の結果は、それぞれの施設で対応していただくことをお願いして、第三者評価のまとめとする。

暫時休憩 休憩時間は16時30分から16時35分まで

5 調査審議（諮問）

(1) 諮問書手交

(2) 次期行財政改革大綱の方向性について

飯田市行財政改革大綱 資料2-1

飯田市行財政改革大綱に基づく実行計画（2023年度及び2024年度計画） 資料2-2

【佐々木財政課長説明】

(下平会長)

2045年には飯田市の人口は現在の人口から約80%減少し、75,000人になると予測される。現在の飯田市の予算・決算をみると、500億円ほどの規模となっており、400億円ほどで運営をするようにみえるが、ここまで圧縮することは非常に大変である。入を量り出ずるを制すをきちんと行っていただき、この問題をどう捉えて政策を打っていくのか教えていただきたい。

(佐々木財政課長)

令和6年度の予算・決算の規模をみると、下平会長の仰せのとおり、約530億円となっており、予算の規模が大きすぎるというご意見もある。物価高騰等の影響や今後控えている大規模事業もあることから、人口が減少していく中で、それに順じて予算も減少していくわけではないが、この予算の状況で引き続き何年も財政運営をしていくと非常に危機的な状況が予測される。今年度から全庁的な事務事業の見直しを取り組もうとしているところであり、できるだけ必要最小限、最低限のところまで財政運営をしていきたいと考えている。

6 今後のスケジュール 【岩崎行革・施設マネジメント係長】

○今後の行財政改革推進委員会の開催予定

・第3回（令和6年8月29日 15:00～17:00 開催）

次期行財政改革大綱について（協議）

・第4回（令和6年9月中～下旬）

次期行財政改革大綱について（協議・答申）

・第5回（令和6年11月下旬）

次期行財政改革大綱及び実行計画について（協議）

・第6回（令和7年3月頃）

次期行財政改革大綱及び実行計画について（報告）

開催時期と内容に関しては現段階の予定であるので、策定手続きの中で見直す可能性もあるので承知いただきたい。

7 その他

（山崎委員）

お配りしたのは、来年5月に発行予定のシニアクラブ連絡会便りの飯田市南信濃木沢都市山村交流促進施設の木造校舎に関連した絵姿の資料である。シニアクラブ内での話し合いの内容も記載されているため、報告も兼ねて便りをお配りした。

8 閉会

（高田副市長）

長時間にわたり熱心にご協議をいただき、感謝申し上げます。委員の皆様からの、指定管理施設に関するご質問、ご意見をたくさんいただいた。次年度以降の指定管理者の選定、管理・運営について協議を内部で進めていくが、いただいたご意見を踏まえて進めてさせていただく。

また、行財政改革大綱の諮問をさせていただいた。先ほど下平会長からお話があったように、2045年に向けてどのような取り組みが必要であるのかという視点は常に持ち続けなければいけないと考えている。飯田市とすると、今後はリニアの対応や新しい文化会館の建設などいろいろな課題があるが、実現させるためにも、できるところは予算をきちんと抑えながら進めていくことが大切であると考えているため、今後とも、ご意見を賜りますようよろしくお願いし、挨拶とさせていただきます。